

青年期結核症＝關スル研究(第一報)

第一編 BCG 非接種群ニ於ケル青年期結核症

東京鐵道局體力管理室 (指導 岡治道博士)

千葉 保之
所澤 政夫

(昭和 18 年 9 月 18 日受領)

目 次

緒 言	者ノソノ後ノ發見率
第一章 研究方法	小 括
第二章 青年期ニ於ケル結核浸襲狀況	文 獻
第三章 初檢時「ツ」反應陽性且結核竈ヲ認メナイ	

緒 言

現下國民體力問題中ノ喫緊時トシテ、結核撲滅ガ取り擧ゲラレテ居ルコトハ論ヲ俟タナイ。余等モ亦昭和 14 年來、關東地方在勤ノ某交通團體従事員ニ就イテ各般ノ結核豫防、體力向上方策ヲ講ジツ、アルノデアルガ、ソノ際、ソノ施策ガ可及的ニ科學的根據ノ上ニ立脚サレルコトヲ念願トシタ。從ツテ、體力ナル概念ヲ精神力、生存力、運動力、抗病力、適應力及ビ増殖力等ノ綜合的ナカトシテ把握セントスル觀點カラ、ソノ體力向上策ハ、各人各個ノ體力ノ實相ヲ科學的ニ測定シ、ソノ程度ニ應ジ、全體トシテ統一的ニ樹立實施サレルコトヲ理想トシタ。併シ、現實ニハ、ソノ能力ト方法ニハ自ラ制限ガアルノデ、我國ノ現状ニ即應シ、ソノ核心ヲナス青年期ニ重點ヲ置キ、ソノ體力就中結核豫防ニ主力ヲ集中スルコトト致シタノデアル。即チ、體力測定ノ手技トシテハ、ソノ可檢域ト信頼度ヲ考慮シテ、「ツベルクリン」反應(以下單ニ

「ツ」反應ト略稱ス)、X線検査及ビ喀痰検査ヲ根幹トシ、赤血球沈降速度測定、理學的検査、身體計測、機能検査及ビ各種ノ勤勞科學的、生化學的検査等ヲコレニ加ヘ、定期的及ビ必要ニ依リ隨時ニ、集團竝ニ個人檢診ヲ施行シ、對象ヲ結核未感染者、「ツ」反應疑陽性無所見者、既感染無所見者、「ツ」反應陽性轉化者及ビ結核病竈保持者等ニ區分ノ上、測定シ得ラレタ體力ノ程度ニ應ジ、與ヘラレタ施設ヲ最大限ニ活用シテ、夫々療養、養護及ビ鍛鍊ノ指導ヲ行ツテ居ルノデアル。然ルニソノ間、種々ノ問題ニ疑義ヲ生ジ、未ダ解決セラレザル諸問題ニ遭遇スルニ至ツタノデ、コレヲノ點ニ關シテハ、一應、既成ノ觀念ヲ離レ、具體的ノ事實ヲ客觀的ニ觀察シツ、改メテ諸方面ヨリ研究スルコトト致シタ。茲ニ報告シ、諸賢ノ御教示ヲ仰ガントスルノハ、ソノ體力問題中ノ青年期結核症ニ關スルモノノ部デ、以下ソノ成績ヲ BCG 接種群ト非

接種群トニ分ケ、先ヅコレヲ忠實ニ順次記載シテ中間報告ト爲シ、最後ニ總括、後、各種文獻ニ徵シ考按、結論スルコトニ致シタ度イト思フ。

第一編 BCG 非接種群ニ於ケル青年期結核症

本編ノ一部要旨ハ、第 21 回日本結核病學會總會デ報告シタモノデアル。

第一章 研究方法

被檢者ハ 15—25 歳ノ男女子ヲ中心トシタ關東地方就中、東京地方在勤ノ某交通團體ノ従事員デ、検査方法ハ大略次ノ様デアル。

1. 「ツ」反應 Anergie 乃至 Hypergie ノ諸問題ヲ考慮シテ、本法ノ實施ニ際シテハ特ニ慎重ヲ期シタ。注射液ハ傳研製舊「ツベルクリン」2000 倍稀釋液（原液ヲ 0.5% 石炭酸加生理的食鹽水デ 2000 倍ニ稀釋セルモノ）ヲ用ヒ、ソノ 0.1cc ヲ 0.05cc 迄正シク讀メル所謂「ツベルクリン」注射筒ニヨク密著シタ $\frac{1}{4}$ ノ針ヲ以テ前膊内側皮内ニ注射シタ。術式ハ前膊ヲ左手デ握ル型デ、注射部位ノ皮膚ヲ四方ニ特ニ注射方向ニ平行ニ緊張サセ、注射針ノ孔ヲ上ニ向ケ、出來ル丈皮膚ニ平行ニ靜カニ針尖ヲ刺シ入レ充分ニ針ノ孔ガ皮内ニ入ツタコトヲ認メテカラ徐々ニ正確ニ 0.1cc ノ液ヲ注入スル。注入直後ハ 8—9 mm ノ貧血性ノ丘狀ノ高マリガ出來ルガ、注射部位カラ液ガ洩レテ來ナイカドウカラ確メ、且被檢者ニハ絶體ニ注射部位ヲ揉マナイ様ニ注意シタ。觀察ハ所謂 48 時間後法デ、人工燈ヲ用ヒズ明ルイ場所ニテ之ヲ行ヒ、發赤、二重（時ニ三重）發赤、硬結、水泡、壞死、出血、浮腫等ヲ觀察目標トシ、發赤、硬結等ノ大サハ Sliding Callipers ヲ以テ計測シタ。判定ハ發赤（二重乃至三重發赤アル場合ハ、内側ノ判然トシタ發赤）ノ長短徑ノ算術平均 10 mm 以上ヲ陽性、5—9 mm ヲ疑陽性、4 mm 以下ヲ陰性ト做シタ。但シ、發赤兩徑ノ平均値ガ 10 mm 以上アツテモノノ短徑ガ 10 mm 未滿ノモノ、發赤ノミデ浮腫モナク硬結ヲ全然觸知シ得ナイモノ、發赤 10 mm 未滿ナルモ X 線検査上肺ニ異

狀所見ヲ有スルモノ、麻疹等ノ急性傳染病經過中竝ニ恢復期ニアルモノ、肋膜炎ソノ他ノ急性炎衝アリカ若クハソノ既往症アルモノ、及ビ結核症ノ既往症アリト訴フルモノ等ニ對シテハ、時ニ對照液ヲ使用シ、100 倍稀釋液ヲ以テ再檢シ、觀察モ 24 時間又ハ 72 時間、若シクハソレ以上ノ時間ヲ經テ重ネテ之ヲ行ヒ、尙確定シ得ザル時ハ、ソノ後隔 2 ヶ月毎ノ「ツ」反應検査、X 線検査等ニ依リソノ推移ヲ觀テ判定シ、必要ニ依ツテハ BCG 接種ニ依ル Koch 氏現象出現ノ有無ニ依ツテ之ヲ決定シタ。「ツ」反應検査ハ毎回同一人ノ手デ行ツタ。即検査開始以後人ノ代ツタコトハモカツタ。

2. X 線検査 間接撮影ノ裝置ハ据付（後藤製）及ビ携帶用（澁谷製）ヲ用ヒ其ノ螢光板ハ Heyden ノ Neossal 寫真機及ビ鏡玉ハ Zeiss-Ikon ノ Contax Sonner f 1.5 ヲ使用シタ。間接撮影ノ利用ハ量的診斷ニ止メ、苟モソレニ異狀所見アリト思ハル、モノハ悉ク直接大撮影ヲ行ツタ。從ツテ直接大撮影數ハ全間接撮影數ニ對シ、「カタステル」制檢診ノ時ハ、ソノ 20%、「ツ」反應陽性轉化者ノ検査ノ時ハ 30% 以上ニ及ンダ。尙直接大撮影ハ上述ノ如ク間接撮影ニ所見アリト思ハル、者ノ他ニ、結核ノ既往症アリト訴フル者、赤血球沈降速度異狀促進者、理學的検査、自覺的症狀ニ異狀アリト認メラル、者、「ツ」反應度異常ニ高キ者等ニ之ヲ施行シ、撮影方向ハ、透視ノ上、異狀部位ノ位置決定ヲ行ヒ、脊腹方向ノミナラズ、必要ニ依リ種々ノ方向カラ行ツタ。

3. 赤血球沈降速度測定 コレハ Westergren

氏法⁽¹⁾ニ依リ、15°-30°Cノ室温ノ下ニ行ヒ、室温15°以下ノ時ハ恒温装置ヲ使用シ、夏季高温ノ時ハ特ニ30°C以下ノ室ヲ擇ンダ。測定ハ、1時間値、2時間値ヲ主トシ、必要ニヨリ、30分値、24時間値及ビソノ他ノ時間値モ測定シタ。
 4. 喀痰検査 塗抹法、集菌法及ビ培養法等ニ依リ喀痰中ノ結核菌検査ヲ主トシテ行ツタ。培地ハ岡、片倉ノ培地⁽²⁾ヲ使用シタガ、喀痰ヲ提出セザル者アル爲、時ニハ咽喉頭液ソノ他ヲモ使用シタ。
 5. 理學の検査、身體計測、機能測定ソノ他 理學の検査ニ際シテハ特ニ既往症ニ注意シ、身體計測及ビ機能測定項目ハ、身長、體重、胸圍、

座高、上膊圍、握力、脊筋力、肺活量、視力、聽力、荷重速行、各種疾走、走幅跳、懸垂等ニシテ、運動機能測定ハ、「ツ」反應、X線検査、赤血球沈降速度(以下單ニ赤沈ト略稱ス)。喀痰検査、理學的檢診及ビ身體計測等ヲ行ツテ、差支ヘナシト認メラレタ者ニ對シテノミ之ヲ施行シタ。ソノ他ノ検査項目ハ、必要ニ依リ、尿、血液等ノ諸種ノ生化學的検査、勤勞科學的検査等デアル。
 尙記載ニ當ツテハ、表ニハ平均誤差ヲ列記シタガ、本文ニ於テハ之ヲ省略シ、小數點以下ハ適宜四捨五入スルコトトシタ。

第二章 青年期ニ於ケル結核浸襲狀況

昭和14及ビ15年ニ施行シタ結核ヲ主トスル集團檢診成績ノ一部ニツイテハ既⁽³⁾ (4)ニ報告シタガ、本章ノ成績ハ昭和16及ビ17年ニ施行シタモノデアル。被檢者ハ前回同様、關東地方在勤者デ何レモ検査當時在勤中ノ臨牀的健康者デアル。昭和16年ニ於テハ年齢13-66歳ノ男女従事員デ、東京市中心地區在勤ノ者ニ對シテハ同年5月カラ8月迄ニ、ソノ他ノ地區ニ於テハ8-10月ニ行ツタモノデアル。昭和17年ニ於テハ8-10月施行シタモノノ中、男子14-25歳ノ年齢層ニ就イテノ成績ヲ舉ゲルコトトシ、ソノ他ノ者ニ就イテハ検査數ニ比シ検査期間ガ比較的長カッタ爲、茲ニハ省略スルコトトスル。檢

査方法ハ第一章記載ノ如クデアル。
 昭和16年ノ検査成績ハ14-19年齢層ノ男子ニ就イテ觀ルト、東京地方ニ於テハ第1表ニ示ス如ク、検査全員8886名ニ對シ夫々、「ツ」反應發赤10mm以上反應者44%、5mm以上反應者48%、要療養者檢出率3% (「ツ」反應10mm以上反應者ニ對シテハ7%)デアル。東京市ニ近接セザル沿線小都市町村地方(以下單ニ小都市附近ト略稱ス)ニ於テハ第2表ニ觀ル如ク、検査全員3787名ニ對シ、「ツ」反應10mm以上反應者31%、5mm以上反應者35%、要療養者1% (「ツ」反應10mm以上反應者ニ對シテハ3%)ヲ示シタ。

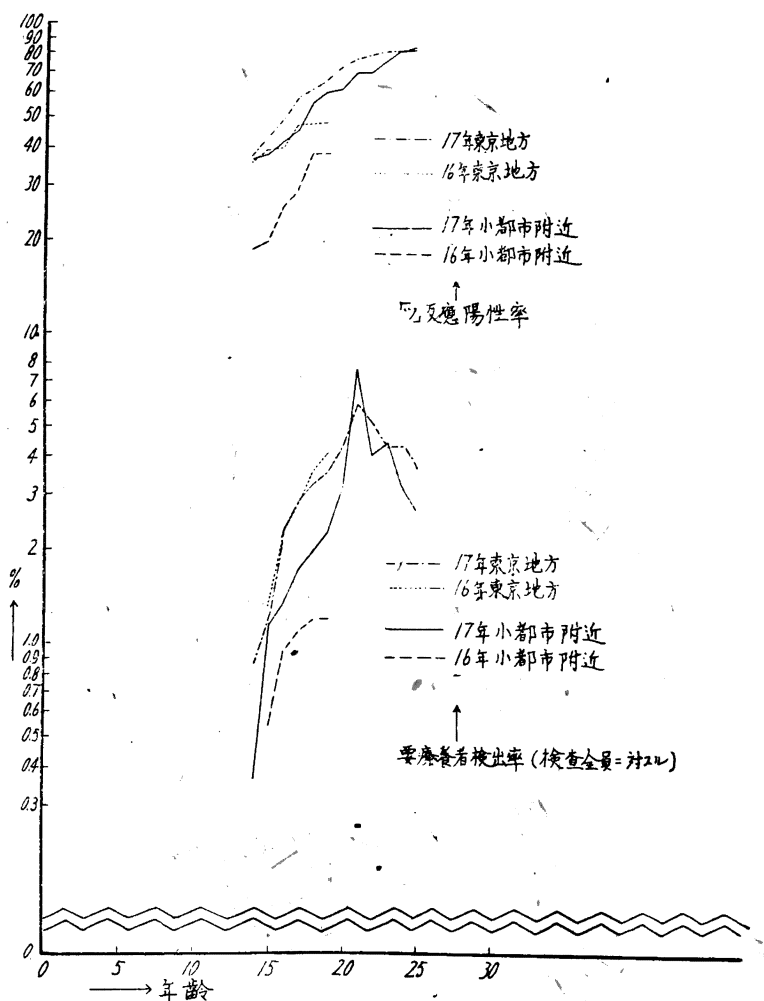
第1表 16年東京地方「ツ」反應陽性率ト要療養者檢出率

年 齡	検査人員	「ツ」反應 10 mm 以上 反應者		「ツ」反應 5 mm 以上 反應者		要 療 養 者		
		實 數	検査人員ニ 對スル%	實 數	検査人員ニ 對スル%	實數	検査人員ニ 對スル%	10mm 以上反應 者ニ對スル%
+	112	40	35.71±4.53	46	41.07±4.65	0		
15	976	379	38.83±1.56	427	43.75±1.59	13	1.33±0.37	3.43±0.93
16	1901	744	39.14±1.12	830	43.66±1.14	49	2.58±0.36	6.59±0.91
17	1833	849	46.32±1.16	930	50.74±1.17	50	2.73±0.38	5.89±0.81
18	2081	971	46.66±1.09	1050	50.46±1.10	72	3.46±0.40	7.42±0.84
19	1983	938	47.30±1.12	997	50.28±1.12	80	4.03±0.44	8.53±0.91
計	8886	3921	44.13±0.53	4280	48.17±0.53	264	2.97±0.18	6.73±0.40

第 2 表 16 年小都市附近「ツ」反應陽性率ト要療養者檢出率

年 齡	檢査人員	「ツ」反應 10 mm 以上 反應者		「ツ」反應 5 mm 以上 反應者		要 療 養 者		
		實 數	檢査人員ニ 對スル%	實 數	檢査人員ニ 對スル%	實數	檢査人員ニ 對スル%	10mm 以上反應 者ニ對スル%
14	54	10	18.52±5.29	13	24.07±5.82	0		
15	577	113	19.53±1.65	145	25.13±1.81	3	0.52±0.30	2.65±1.51
16	740	189	25.54±1.60	226	30.54±1.69	7	0.95±0.36	3.70±1.37
17	822	238	28.95±1.58	282	34.31±1.66	9	1.09±0.36	3.78±1.24
18	838	323	38.54±1.68	349	41.65±1.70	10	1.19±0.37	3.10±0.96
19	756	289	38.23±1.77	311	41.14±1.79	9	1.19±0.39	3.11±1.02
計	3787	1162	30.68±0.75	1326	35.01±0.78	38	1.00±0.16	3.27±0.52

第 1 圖 地域別「ツ」反應陽性率及要療養者檢出率



コレヲ地域別、年齢別ニ比較スルト第 1 圖(對數「グラフ」)ニ觀ル如ク(「ツ」反應陽性率、要療養者檢出率共ニ、東京地方モトヨリ高率デアアルガ、何レモ、年齢ト共ニソノ率ヲ増シ、且、曲線ノ傾斜度ハ、等シク皆、可成リ急峻デ、シカモ夫々略々同傾向ヲ走ルノガ觀取サレル。

昭和 17 年ノ成績ヲ 14—25 歳ノ男子ニ就イテ觀

ルト、東京地方デハ第 3 表ニ示ス如ク、檢査人員 15833 名ニ對シ、「ツ」反應發赤 10 mm 以上反應者 61%、5 mm 以上反應者 6%、要療養者 3% (「ツ」反應 10 mm 以上反應者ニ對シ 5%)ヲ示シ、小都市附近デハ第 4 表ニ觀ル如ク、檢査人員 7492 名ニ對シ、「ツ」反應發赤 10 mm 以上反應者 53%、5 mm 以上反應者 57%、要

第 3 表 17 年東京地方「ツ」反應陽性率ト要療養者檢出率

年 齡	檢査人員	10 mm 以上反應者		5 mm 以上反應者		要 療 養 者		
		實 數	檢査人員ニ 對スル%	實 數	檢査人員ニ 對スル%	實數	檢査人員ニ 對スル%	10mm 以上反應 者ニ對スル%
14	356	138	38.76±2.58	158	44.38±2.63	3	0.84±0.48	2.17±1.24
15	1821	786	43.16±1.16	838	47.12±1.17	22	1.21±0.26	2.80±0.59
16	2325	1122	48.26±1.04	1223	52.60±1.04	53	2.28±0.31	4.72±0.63
17	2512	1440	57.32±0.99	1512	60.19±0.98	71	2.83±0.33	4.93±0.57
18	2324	1416	60.93±1.01	1886	63.94±1.00	75	3.23±0.37	5.30±0.60
19	2146	1427	66.50±1.04	1492	69.52±0.99	80	3.73±0.41	5.61±0.61
小計	11484	6329	55.11±0.46	6729	58.59±0.46	304	2.65±0.15	4.80±0.27
20	1686	1231	73.01±1.08	1281	75.98±1.04	72	4.27±0.49	5.85±0.67
21	579	447	77.20±1.74	468	80.83±1.64	34	5.87±0.98	7.61±1.25
22	560	447	79.82±1.70	467	83.39±1.57	29	5.18±0.94	6.49±1.17
23	399	324	81.20±1.96	342	85.71±1.75	17	4.26±1.01	5.25±1.24
24	626	513	81.95±1.54	535	85.46±1.61	27	4.31±0.81	5.26±0.99
25	499	419	83.97±1.64	440	88.18±1.45	18	3.61±0.84	4.30±0.99
計	15833	9710	61.33±0.39	10262	64.81±0.38	501	3.16±0.14	5.16±0.22

第 4 表 17 年小都市附近「ツ」反應陽性率ト要療養者檢出率

年 齡	檢査人員	10 mm 以上反應者		5 mm 以上反應者		要 療 養 者		
		實 數	檢査人員ニ 對スル%	實 數	檢査人員ニ 對スル%	實數	檢査人員ニ 對スル%	10mm 以上反應 者ニ對スル%
14	275	103	37.45±2.92	120	43.64±2.99	1	0.36±0.36	0.97±0.97
15	962	365	37.94±1.56	417	43.35±1.60	11	1.14±0.34	3.01±0.89
16	1116	455	40.77±1.47	512	45.88±1.49	15	1.34±0.34	3.30±0.84
17	1222	553	45.25±1.42	611	50.00±1.43	21	1.72±0.37	3.80±0.81
18	1104	601	54.44±1.50	652	59.06±1.48	22	1.99±0.42	3.66±0.77
19	1015	607	59.80±1.54	650	64.04±1.51	23	2.27±0.47	3.79±0.78
小計	5694	2684	47.14±0.66	2962	52.02±0.66	93	1.64±0.17	3.46±0.35
20	700	426	60.86±1.84	457	65.29±1.80	22	3.14±0.66	5.16±1.07
21	213	149	69.95±3.14	156	73.24±3.03	16	7.51±1.81	10.74±2.54
22	229	160	69.87±3.03	167	72.93±2.94	9	3.93±1.28	5.63±1.82
23	179	137	76.54±3.17	112	79.33±3.03	8	4.47±1.54	5.84±2.00
24	251	205	81.67±2.44	213	84.86±2.26	8	3.19±1.11	3.90±1.35
25	226	181	80.09±2.66	188	83.19±2.49	6	2.65±1.07	3.31±1.33
計	7492	3942	52.62±0.58	4285	57.19±0.57	162	2.16±0.17	4.11±0.32

療養者 2% (「ツ」反應 10 mm 以上反應者ニ對シ 4%) ヲ示シタ。

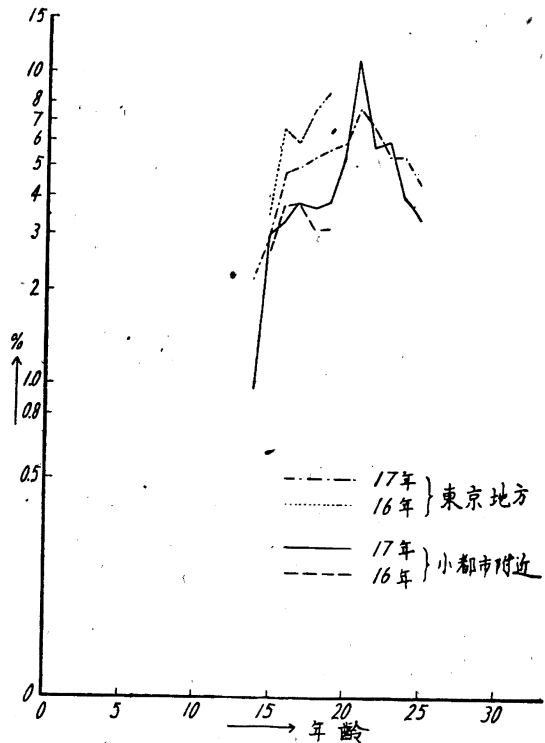
17 年ノ上記成績ヲ地域別、年齢別ニ比較スルト 16 年ノ成績ノ様ニソノ高低ノ差異著明デハナク、且ソノ趣キモ多少違ツタ關係ヲ示シタ。即チ「ツ」反應陽性率ハ、14 歳ニ於テハ東京地方 39%、小都市附近 37% デ殆ンド同率ニ近ク、後稍々東京地方高率ノ儘推移シテ、24 歳ニ至ルト再び近接シ、兩地方殆ンド同率 (82%) ヲ示シタ。又被檢全員ニ對スル要療養者檢出率ヲ觀ルト、東京地方ニ於テハソノ曲線 (第 1 圖) ハ 16 歳 (2%) 迄ソノ傾斜度急峻デソノ後稍々緩慢トナリ 19 歳 (4%) ヨリ再び急峻トナツテ 21 歳ノ最高峰 (6%) ヲ形成シテ後下降スル。小都市附近ノ要療養者檢出曲線 (第 1 圖) モ東京地方ノソレト略々同型ノ曲線ヲ示スガ、東京地方ニ比較シ 16 歳 (1%) 頃カラ稍々ソノ傾斜度ヲ減ジ、19 歳 (2%) カラ再び同様に峻峻トナツテ 21 歳ニハ遂ニ東京地方ノ最高峰ヲ突破シテ 8% ヲ示シ後マタ、ヨリ急峻ニ下降スルニ至ル。從ツテ要療養者檢出率曲線ハ兩地方何レニ於テモ、21 歳ニ於テソノ山ノ高峻尖鋭化ガ觀取サレルガ、東京地方ニ於テハ、小都市附近ニ於ケルガ如クハ著明デナイト言フ事ガ出來ル。

14—19 歳ノ男子ニ就イテ地域別、年齢別ニ 16 年及ビ 17 年ノ上記成績ヲ比較スルト小都市附近ニ於テハ 17 年ノ「ツ」反應陽性率曲線 (第 1 圖) ハ 16 年ノソレニ比較シテ一段ト高率ノ儘平行シテ走行シ、而モ 16 年ノ東京地方ノ「ツ」反應陽性率曲線ト互ニ交錯ヲ示シタ。又小都市附近ノ要療養者檢出率ハ、「ツ」反應陽性率曲線 (第 1 圖) ト同様、17 年度高率ニ兩者殆ンド平行スルヲ觀取出來タ。然ルニ東京地方ニ於テハ、「ツ」反應陽性率曲線 (第 1 圖) ハ 17 年ニ於テ、ヨリ高率ノ傾向ヲ走ツテ居ルガ、全員ニ對スル要療養者檢出率曲線 (第 1 圖) ニ至ツテハソノ事情ヲ異ニシ、17 年、16 年ノ各曲線ハ互ニ交錯又ハ重複ヲ示シテ居ル。即チ、小都市附近ニ於テハ「ツ」反應陽性率モ要療養者檢出率モ共ニ 17 年

ニ於テ高率ヲ示シ、何レモ東京地方ノソレニ近接シタガ、東京地方ニ於テハ、「ツ」反應陽性率ノミハ小都市附近ニ於ケルガ如ク 16 年ニ比較シ 17 年著明ニソノ率ヲ増加セルニ拘ラズ、要療養者檢出率ハ之ニ伴ハズ、殆ンド同率乃至減少ノ傾向スラ觀取サレタ。

更ニ亦要療養者ニ就イテ「ツ」反應陽性者ニ對スル檢出率ヲ觀ルト、第 2 圖ニ示ス如ク、小都市附近ニ於テハ 16 年、17 年ノ間ニ大差ヲ示サナイガ、東京地方ニ於テハ 17 年ハ寧ろ低率ヲ示シタ。

第 2 圖 地域別要療養者檢出率 (「ツ」反應陽性者全員ニ對スル)



東京市内中心地區在勤ノ 13—66 歳ノ男女子ニ施行シタ成績ハ第 5 表ニ示ス如クデ男女通算シテ總檢査人員 20186 名ニ對シ「ツ」反應發赤 10 mm 以上ノ反應者 80%、5 mm 以上反應者 83%、檢出要療養者 3% ヲ占メタ。

第5表 東京市內中心地區ノ「ツ」

年 齡	檢 査 人 員			「ツ」反・應 10 mm 以上 反 應 者								
	男	女	計	男		女		計		實 數		
				實 數	檢査人員ニ 對スル%	實 數	檢査人員ニ 對スル%	實 數	檢査人員ニ 對スル%			
13	1											
14	231	11	242	100	43.3±3.26	3		103	42.6±3.18	109		
15	850	43	893	395	46.5±1.72	16		401	44.9±1.66	420		
16	1043	53	1096	508	48.7±1.55	29	191	537	49.0±1.51	541		
17	1317	89	1406	691	52.5±1.38	39		5.41±2.65	730	51.9±1.33	724	
18	1325	97	1422	771	58.2±1.36	57			828	58.2±1.31	814	
19	1216	71	1287	844	69.4±1.32	50			894	69.5±1.28	880	
20	661	79	740	503	76.1±1.66	49	144	552	74.6±1.60	533		
21	422	66	488	337	79.9±1.95	43		68.2±1.01	380	77.9±1.88	356	
22	245	23	268	196	80.0±2.56	16			212	79.1±2.48	210	
23	366	20	386	297	81.1±2.05	16			313	81.1±1.99	314	
24	441	23	464	359	81.4±1.85	20	143	379	81.7±1.80	375		
25	453	14	467	371	81.9±1.81	13		87.2±0.82	384	82.2±1.77	393	
26	453	17	470	386	85.2±1.67	14			400	85.1±1.64	406	
27	436	20	456	373	85.6±1.68	12			385	84.4±1.70	390	
28	430	13	443	366	85.1±1.72	13	164	379	85.6±1.67	381		
29	453	8	461	405	89.4±1.45	8		87.2±0.82	413	89.6±1.42	416	
30	520	19	539	473	91.0±1.25	16			489	90.7±1.25	491	
31	518	20	538	486	93.8±1.06	20			506	94.1±1.02	501	
32	618	18	636	577	93.4±1.00	16	68	593	93.2±1.00	596		
33	590	14	604	561	96.1±0.89	13		94.4±2.70	574	95.0±0.89	577	
34	583	21	604	553	94.9±0.91	18			571	94.5±0.93	570	
35	551	15	566	532	96.6±0.77	15			547	96.6±0.76	538	
36	568	10	578	550	96.8±0.74	9	72	559	96.7±0.74	557		
37	560	9	569	540	96.4±0.79	9		94.4±2.70	549	96.5±0.77	549	
38	540	10	550	519	96.1±0.83	10			529	96.2±0.82	530	
39	492	9	501	473	96.1±0.87	8			481	96.0±0.88	486	
40	438	9	447	427	97.5±0.75	8	67	435	97.3±0.77	435		
41	376	5	381	363	96.5±0.80	5		98.5±1.46	368	96.6±0.93	371	
42	321	2	323	311	96.9±0.97	2			313	96.9±0.96	319	
43	318	1	319	306	96.2±1.07	1			307	96.2±1.07	315	
44	281	2	283	273	97.2±0.98	1	67	274	96.8±1.05	280		
45	249		249	243	97.6±0.97			98.5±1.46	243	97.6±0.97	247	
46	226	2	228	222	97.4±1.06	2			224	98.2±0.88	223	
47	219	6	225	213	97.3±1.10	6			219	97.3±1.08	217	
48	195	2	197	193	99.0±0.71	1	67	194	98.5±0.87	194		
49	185	1	186	181	97.8±1.08	1		98.5±1.46	182	97.8±1.08	184	
50	148	2	150	145	98.0±1.15	2			147	98.0±1.14	148	
51	139		139	136	97.8±1.24				136	97.8±1.24	139	
52	142	1	143	140	98.6±0.99	1	67	141	98.6±0.98	142		
53	111	1	112	109	98.2±1.26	1		98.5±1.46	110	98.2±1.26	111	
54	59		59	58	98.3±1.68				58	98.3±1.68	59	
55	29		29	29					29		29	
56	23		23	22				22		23		
57	10		10	10				10		10		
58	3	68	3	3	67	98.5±1.46	67	3	67	98.5±1.46	3	
59	1		1	1				1				1
60	1		1	1				1				1
66	1		1	1				1				1
計	19358	828	20186	15555	80.4±0.29	564	68.1±1.62	16119	79.9±0.28	16111		

反應陽性率、ト要療養者檢出率

「ツ」反應 5mm 以上反應者				要 療 養 者							
男		女		計		男		女		計	
検査人員＝ 對スル%	實 數	検査人員＝ 對スル%	實 數	検査人員＝ 對スル%	實 數	検査人員＝ 對スル%	實 數	検査人員＝ 對スル%	實 數	検査人員＝ 對スル%	實 數
47.2±3.28	1		3	46.3±3.21	4	1.7±0.85	1		5	2.1±0.92	
49.4±1.71	18		112	49.0±1.67	16	1.9±0.42	2		18	2.0±0.47	
51.9±1.55	30	201	438	52.1±1.51	30	2.9±0.52	7	2.0±0.75	30	2.7±0.49	
55.0±1.37	43		571	54.6±1.33	30	2.3±0.41			1	31	2.2±0.39
61.4±1.34	58		767	61.3±1.29	44	3.3±0.49			2	46	3.2±0.45
72.4±1.28	52		872	72.4±1.25	37	3.0±0.49			2	39	3.0±0.48
80.6±1.54	51		932	78.9±1.50	20	3.0±0.66			1	21	2.8±0.61
84.4±1.77	49	153	405	83.0±1.70	15	3.6±0.91	5	2.4±1.05	16	3.3±0.81	
85.7±2.24	16		226	84.3±2.22	10	4.1±1.27			1	10	3.7±1.15
85.8±1.32	16		330	85.5±1.79	15	4.1±1.04			3	15	3.9±0.99
85.0±1.70	21		396	85.3±1.64	16	3.6±0.89				19	4.1±0.92
86.8±1.59	13		406	86.9±1.56	14	3.1±0.81				14	3.0±0.79
89.6±1.43	14	148	420	89.4±1.42	13	2.9±0.79	6	3.7±1.47	14	3.0±0.79	
89.4±1.47	15		405	88.8±1.48	10	2.3±0.72			1	11	2.4±0.72
88.6±1.53	13		394	88.9±1.49	11	2.6±0.77			1	12	2.7±0.77
91.8±1.29	8		424	92.0±1.26	10	2.2±0.69			1	10	2.2±0.68
94.4±1.01	17		508	94.2±1.01	11	2.1±0.63			1	11	2.3±0.60
96.7±0.78	20		521	96.8±0.76	12	2.3±0.66			1	13	2.4±0.66
96.4±0.75	16		612	96.2±0.76	14	2.3±0.60			1	15	2.4±0.61
97.8±0.60	13		590	97.7±0.61	14	2.4±0.63			1	14	2.3±0.61
97.8±0.61	19		589	97.5±0.64	14	2.4±0.63			1	15	2.5±0.64
97.6±0.65	15		553	97.7±0.63	12	2.2±0.62				12	2.1±0.60
97.2±0.69	9	69	566	97.5±0.65	13	2.3±0.63	1	1.4±1.38	13	2.0±0.58	
98.0±0.59	9		558	98.1±0.57	13	2.3±0.63			13	2.3±0.63	
98.1±0.59	11		541	98.4±0.54	14	2.6±0.68			14	2.5±0.67	
98.8±0.49	8		494	98.6±0.52	11	2.2±0.66			11	2.2±0.66	
99.3±0.40	8		443	99.1±0.45	15	3.4±0.87			15	3.4±0.86	
98.7±0.58	5		376	98.7±0.58	12	3.2±0.91			12	3.1±0.89	
99.4±0.43	2		321	99.4±0.43	11	3.4±1.01			11	3.4±1.01	
99.1±0.53	1		316	99.1±0.53	9	2.8±0.93			9	2.8±0.92	
99.6±0.38	1		281	99.3±0.50	10	3.6±1.11			1	11	3.9±1.15
99.2±0.56			247	99.2±0.56	7	2.8±1.05				7	2.8±1.05
98.7±0.75	2	225	98.7±0.75	6	2.7±1.08	1	7	3.1±1.15			
99.1±0.64	6	223	99.1±0.63	8	3.7±1.28		8	3.6±1.24			
99.5±0.51	2	196	99.5±0.50	5	2.6±1.14		5	2.5±1.11			
99.5±0.52	1	185	99.5±0.52	6	3.2±1.29		6	3.2±1.29			
100.0±0.00	2	150	100.0±0.00	5	3.4±1.49		5	3.3±1.46			
100.0±0.00		139	100.0±0.00	5	3.6±1.58		5	3.6±1.58			
100.0±0.00	1	143	100.0±0.00	4	2.8±1.38		4	2.8±1.38			
100.0±0.00	1	112	100.0±0.00	3	2.7±1.54		3	2.7±1.53			
100.0±0.00		59	100.0±0.00	2	3.4±2.36		2	3.4±2.36			
100.0±0.00		29									
		23									
		10									
		3	67	100.0±0.00							
		1									
		1									
		1									
83.2±0.32	590	71.3±1.57	16701	82.7±0.27	531	2.7±0.12	21	2.5±0.54	552	2.7±0.11	

性別ニ觀ルト女子ニ於テハ「ツ」反應陽性率ハ検査人員 828 名ニ對シ 68%ヲ示シ 15—19 年層ニ於テ 54%、20—24 年層ニ於テ 68%等ノ如クデア。又檢出要療養者ハ 2.5%デ 15—19 年層 2.0%、20—24 年層 2.4% 等ノ如クデア。

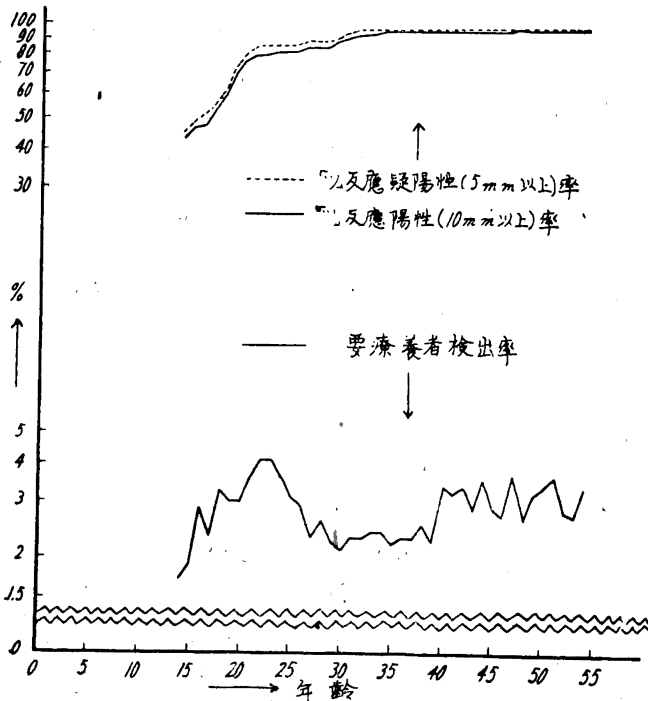
男子ニ於テハ、検査人員 19358 名ニ對シ「ツ」反應 10 mm 以上反應者 80%、5 mm 以上反應者 83%、檢出要療養者 2.7%ヲ示ス。之ヲ年齢別ニ觀ルト、「ツ」反應陽性率ハ年齢ト共ニ増加シ 22 歳 (80%) 迄ハ可成リ急ニ増加スルガソノ後特ニ 30 歳 (91%) 以後デハ極メテ緩慢デ 48 歳 99%、54 歳 98%等ノ如ク未ダ 100.0%ニハ到達シナイ。併シ「ツ」反應 5 mm 以上反應者ニ於テハモトヨリ 50 歳ニ於テ遂ニ 100.0%ニ達シテ居ル。コノ關係ヲ對數「グラフ」ヲ以テ圖示スルト第 3 圖ニ觀ル如ク「ツ」反應陽性率ノ曲線ハ 20 歳頃迄ハソノ傾斜度急峻デ後緩慢ヲ示シ、更

ニ 34 歳頃ヨリハ殆ンド平坦ノ儘走行シ、「ツ」反應 5 mm 以上反應者ノ曲線ハ、「ツ」反應陽性率曲線ト極メテ接近シ同傾向ヲ走ツテ居ルノガ觀取サレル。

要療養者檢出率ヲ 5 年階級別ニ觀ルト第 6 表及ビ第 4 圖ノ如クデ、曲線ハ概シテ緩慢ノ傾向ヲ示シ、先ヅ 20—24 歳ニ於テツノ低イ山 (3.6%)ヲ作り、後 30—34 歳ノ谷 (2.3%)ヲ經テ、40—44 歳ニ再ビ青年期ノ山ニモ達セン程ノ高イ山 (3.3%)ヲ描イテ居ルコトガ觀取サレル。次ニ「ツ」反應陽性者ニ對スル要療養者檢出率ヲ觀ルト、15—19 歳ニ於テ寧ろ高率デ、4.9%、20—24 歳 4.5%、以後減少シ、35—39 歳 (2.4%)ニハ谷ヲ作り 40—44 歳 (3.4%)ニ於テハ前ト同様再ビ山ヲ作ル。

檢出要療養者ノ病型ヲ上述ノ男子 15—54 歳ノ者ニ就イテ觀察スルト前掲第 6 表ニ示シタ如ク、ソノ全員 19058 名ニ對シ、肋膜炎、肺門淋

第 3 圖 東京市内中心地區男子ノ「ツ」反應ト要療養者



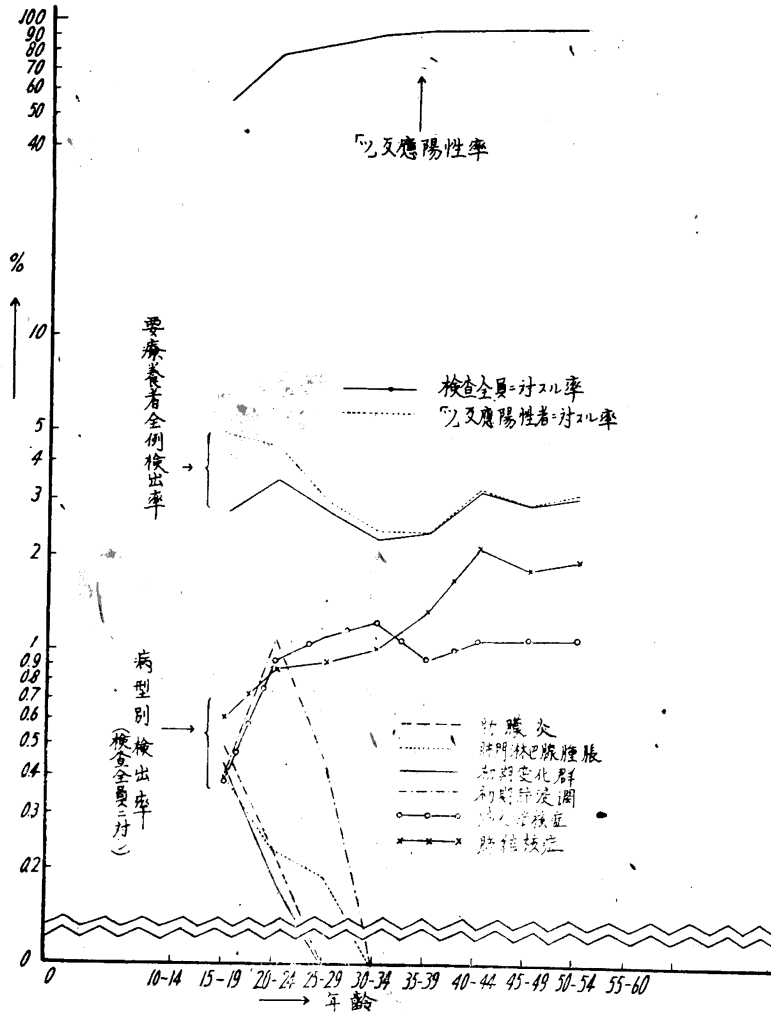
巴腺腫脹及ビ初期變化群各 0.2%、初期肺浸潤 0.3%、粟粒結核症 0.01%、肺尖結核症 0.9%、肺結核症 1.1%ヲ示シ、即チ初期結核症 0.8%、慢性結核症 2%ヲ檢出シタ。年齢階級別ニ觀ルト、15—19 歳初期結核症 1.7%、慢性結核症 1.0%、20—24 歳初期結核症 1.8%、慢性結核症 1.8%、25—29 歳初期結核症 0.5%、慢性結核症 2.0%、30—34 歳初期結核症僅カニ 0.04%、慢性結核症 2.2%、以後ノ年齢ニ於テハ慢性結核症ノミ檢出シタ。病型別デハ、肋膜炎 15—19 歳 0.5%、20—24 歳 0.2%、ソレ以後ハ認メラレズ。肺門淋巴腺腫脹 15—19 歳 0.4%、20—24 歳 0.2% 25—29 歳更ニ減少シテ 0.1%、以後檢出セズ、初期變化群 15—19 歳 0.4%、20—24

第6表 東京市内中心地区ノ要療養者ノ病型

年 齡	檢 査 人 員 檢 査 全 員 「ツ」反陽性者 (「ツ」反陽性率)	病 症										慢 性 肺 結 核 症		%		
		初 期 結 核 症		結 核 症		*初期肺浸潤		粟 粒 結 核 症		肺 尖 結 核 症		肺 結 核 症				
		肋 膜 炎	肺 門 淋 巴 腺 腫 脹	初 期 變 化 群	初 期 肺 浸 潤	粟 粒 結 核 症	肺 尖 結 核 症	肺 結 核 症	肋 膜 炎	肺 門 淋 巴 腺 腫 脹	初 期 變 化 群	初 期 肺 浸 潤	粟 粒 結 核 症		肺 尖 結 核 症	肺 結 核 症
質 數	質 數	質 數	質 數	質 數	質 數	質 數	質 數	質 數	質 數	質 數	質 數	質 數	質 數	質 數	質 數	
檢 査 全 員ニ對スル%	檢 査 全 員ニ對スル%	檢 査 全 員ニ對スル%	檢 査 全 員ニ對スル%	檢 査 全 員ニ對スル%	檢 査 全 員ニ對スル%	檢 査 全 員ニ對スル%	檢 査 全 員ニ對スル%	檢 査 全 員ニ對スル%	檢 査 全 員ニ對スル%	檢 査 全 員ニ對スル%	檢 査 全 員ニ對スル%	檢 査 全 員ニ對スル%	檢 査 全 員ニ對スル%	檢 査 全 員ニ對スル%	檢 査 全 員ニ對スル%	
(陽性者ニ對スル%)	(陽性者ニ對スル%)	(陽性者ニ對スル%)	(陽性者ニ對スル%)	(陽性者ニ對スル%)	(陽性者ニ對スル%)	(陽性者ニ對スル%)	(陽性者ニ對スル%)	(陽性者ニ對スル%)	(陽性者ニ對スル%)	(陽性者ニ對スル%)	(陽性者ニ對スル%)	(陽性者ニ對スル%)	(陽性者ニ對スル%)	(陽性者ニ對スル%)	(陽性者ニ對スル%)	
15-19	5751 3209 (55.8±0.65)	29 0.50±0.09 (0.90±0.17)	23 0.40±0.08 (0.70±0.15)	24 0.42±0.09 (0.75±0.15)	23 0.40±0.08 (0.70±0.15)	1 0.02±0.02 (0.03±0.03)	22 0.38±0.08 (0.69±0.15)	35 0.61±0.08 (1.09±0.18)	157 2.73±0.21 (4.89±0.38)							
20-24	2135 1692 (79.3±0.88)	5 0.23±0.10 (0.30±0.13)	5 0.23±0.10 (0.30±0.13)	4 0.19±0.09 (0.24±0.12)	23 1.08±0.22 (1.36±0.23)		20 0.94±0.21 (1.18±0.26)	19 0.89±0.20 (1.12±0.26)	76 3.56±0.40 (4.49±0.50)							
25-29	2225 1901 (85.4±0.75)		2 0.09±0.06 (0.11±0.08)		10 0.45±0.14 (0.53±0.17)		25 1.12±0.22 (1.32±0.26)	21 0.94±0.20 (1.10±0.24)	58 2.61±0.34 (3.05±0.40)							
30-34	2829 2650 (93.7±0.46)				1 0.04±0.04 (0.04±0.04)		35 1.24±0.21 (1.32±0.22)	29 1.03±0.19 (1.09±0.20)	65 2.30±0.28 (2.45±0.30)							
35-39	2711 2614 (96.4±0.36)						26 0.96±0.19 (0.99±0.19)	37 1.36±0.22 (1.42±0.23)	63 2.41±0.30 (2.41±0.30)							
40-44	1794 1680 (96.9±0.42)						19 1.10±0.25 (1.13±0.26)	38 2.19±0.35 (2.26±0.36)	57 3.29±0.44 (3.39±0.44)							
45-49	1074 1052 (98.0±0.43)						12 1.12±0.32 (1.14±0.33)	20 1.86±0.41 (1.90±0.42)	32 2.98±0.53 (3.04±0.53)							
50-54	599 588 (98.2±0.54)						7 1.17±0.44 (1.19±0.45)	12 2.00±0.57 (2.04±0.58)	19 3.17±0.72 (3.23±0.73)							
計	19058 15386 (80.7±0.29)	34 0.18±0.03 (0.22±0.04)	30 0.16±0.03 (0.19±0.04)	28 0.15±0.03 (0.18±0.03)	57 0.30±0.04 (0.37±0.05)	1 0.01±0.01 (0.01±0.01)	166 0.87±0.07 (1.08±0.08)	211 1.11±0.08 (1.37±0.09)	527 2.77±0.12 (3.43±0.15)							

* 所謂、早期浸潤形ノモノモ含ム

第 4 圖 東京市内中心地區要療養者病型



歳 0.2%、25 歳以上ニ於テハ認メラレズ、初期肺浸潤ニ於テハ稍々ソノ趣ヲ異ニシ第 3 圖ニモ觀ル如ク 15—19 歳 0.4% ヨリ 20—24 歳 1.1% ト増加シテツノ山ヲ作り、後減少シ 25—29 歳 0.5%、30—34 歳 0.04%、以後檢出ヲ見ズ。粟粒結核症ニ於テハ 15—19 歳ニ 1 例ノミ (0.02%)、慢性結核症ニ於テハ肺尖結核 15—19 歳 0.4% ヨリ漸次ソノ率ヲ増シテ 30—34 歳 1.2% ニ達シ、以後増率セズ、肺結核症ハ 15—19 歳 (0.6%) ヨリ 30—34 歳 (1.0%) 迄ハ徐々ニ増シ

タガ、後比較的急ニ増加シ 40—44 歳ノ最高率 (2.2%) ニ達シ、ソノ後ハ稍々低下ス。以上ヲ要スルニ初期結核症及ビ粟粒結核症ハ、「ツ」反應陽性率ガ比較的著明ニ増加スル 15—24 年齢層ニ主トシテ認メラレ 35 歳以後ニ於テハ檢出シ得ナカツタガ、反之慢性結核症特ニ肺結核症ニ於テハ 35 歳以後ニ於テヨリ一層高率ヲ示シタ。尙被檢全員ニ對スル要療養者檢出率曲線 (第 4 圖) ノ一ツノ高イ山ニ相應スル 20—24 歳ニ於テハ初期結核症 (1.7%) 及ビ慢性結核

症(1.8%)共ニ殆ンド同率ヲ示シタガ、他ノ一ツ山ニ相應スル40—44歳ニ於テハ慢性結核症

(3.3%)ノミ檢出シタ。

第三章 初檢時「ツ」反應陽性且結核竈ヲ認メナイ者ノソノ病後ノ竈發見率

定期及ビ臨時ノ集團檢診竝ニ個人診查ノ結果既感染無所見者ト認メラレタ者ノ中、「ツ」反應陽性轉化後、1ヶ年經過セルコト既ニ明カナル者ニ對シテハ、初メ年1—2回、後年1回、ソノ他ノ者ニ對シテハ年2—4回、結核ニ關スル檢診ヲ行ツテソノ管理ニ當ツテ居ルモノデアルガ、茲ニ發表セントスルモノハ、檢査時既ニ「ツ」反應陽性ヲ示シタルモ、ソノ陽性轉化ノ時期不明ナルモノニ就イテノ觀察デアル。ソノ目標ハ、「ツ」反應陽性ニシテ且X線ソノ他ノ檢査ニテ結核竈ヲ認メ得ナカツタ者ガ、ソノ後、發病スルカドウカ、發病スルコトアリトセバ、如何ナル時期ニ、如何ナル病型ヲ以テ且如何ナル頻度ニ於テ起ルカ等ノ問題ニシテ、コレハ再感染發病ノ可能性ノ問題トモ關聯シ、結核豫防對策樹立上極メテ重要ナ問題ト思惟サレルガ、「ツ」反應陽性者ヲ對象トシテ3年間ニ互ル觀察ノ結果カ

ラモ、ソノ一端ニ觸レ得タト思フノデ先ヅソノ概略ヲ報告スルコトトスル。

被檢者ハ昭和15年定期集團檢診受檢者中、同年8月1日現在東京市内在勤ノ年齢17—18歳ノ男子ニ關スルモノデ、コレニ對シ第1章記載ノ檢査ヲ行ヒ、「ツ」反應陽性ニシテ結核竈ヲ認メ得ナカツタ者1328名ヲ本研究ノ對象トシタガ、ソノ檢査成績ハ次ノ様デアル。

初檢時「ツ」反應發赤10mm以上反應者ハ1498名ニシテ、ソノ中病竈ヲ認メ得タ者170名デ(11%)、コノ170名ヲ除外シタ1328名ノ「ツ」反應陽性且結核竈ヲ認メナイ者ニ對シ、1年後、初檢時ト同様ノ檢査ヲ行ツタノデアルガ、ソノ成績ハ第7表ニ示ス如ク、他管内ヘノ轉出ノ爲38名ノ未檢者ガ出來タ。是等ハ照會ニ依レバ、健在中ナルモ、X線檢査ノ結果ヲ確認シ得ナカツタモノデ、之ヲ除キ、受檢者1290名ニ就イテ

第7表 初檢時「ツ」反應陽性且結核竈ヲ認メザル者ノ其後ノ發見率

檢 査 時 期	檢 査 人 員	依然病竈ヲ認メ得ザルモノ		新々ニ病竈ヲ認メ得タモノ		未 檢 人 員
		實 數	檢査人員ニ對スル%	實 數	檢査人員ニ對スル%	
初 檢 後 —1年	1290	1283	99.46±0.20	7	0.54±0.20	38 (他へ轉出ノ爲)
初 檢 後 —2年	1257	1257	100.0	0		26 (他へ轉出ノ爲)

觀ルト、7名(0.5%)ニ結核竈ヲ認メタ。次ニ、コノ病竈ヲ認メタ7名ヲ除イタ者即チ、初檢時「ツ」反應陽性且、1年後ニ於テモ猶病竈ヲ認メ得ナカツタ者1283名ヲ對象トシテ更ニ1年後(即チ初檢時ヨリ2年後)ニ再ビ、初檢時ト同様ノ檢査ヲ施行シタ。コノ際ニモ前同様ノ轉出者2名ヲ算シタガ、調査ニ依レバ、健在中ナルモ、前回同様、X線檢査ヲ施行シ得ナカツタ者デアル。從ツテ受檢者ハ1257名デアルガ、ソレニ就イテ觀ル時ハ、1年後トハ事情ヲ異ニシ、遂ニ1例ノ結核竈所持者モ發見スルヲ得ナ

カツタ。

即チ、初檢時「ツ」反應陽性ニシテ且結核竈ヲ認メナカツタ者ニ於テハ爾後1年間ノ經過中ニ、ソノ0.5%ニ該當スル結核發病者ヲ認メ得タガ、ソノ他ノ者ニ就イテハ、初檢後2年ニ至ルモ、未ダ遂ニ1例ノ結核竈モ發見シ得ナカツタモノデアル。

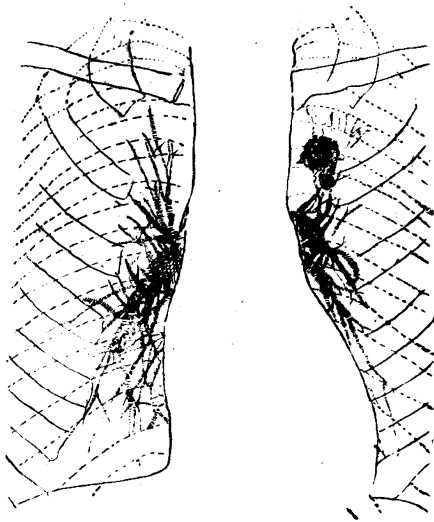
初檢後1ヶ年ニ於テ病竈ヲ認メ得タ者7例ニ就イテノ檢査成績ハ第8—14表及ビ第5—18圖ニ示ス如クデ概略次ノ様デアル。

症例1(第8表) 胸圍ニ於テ初檢時78.5cm.

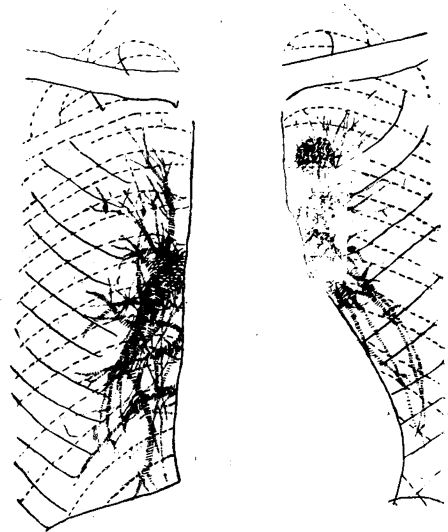
第 8 表 症 例 1

索引番號	15—1187	初檢時年齡	17 歲	初檢時	昭和 15 年 7 月 17 日
檢 查 項 目	初 檢 時	1 年 後	2 年 後		
身 長 cm	165.2	165.4	167.7		
體 重 kg	50.0	51.0	49.2		
胸 圍 cm	78.5	81.0	82.0		
「ツ」反應 mm (發赤硬結)	19×19 19×19	16×20 15×16	14×20 14×20	二重發赤(60×40)	
赤 沈 mm (1時間値 2時間値)	6 14	5 11	2 7		
X 線 像	病竈ヲ認メズ	左鎖骨下内側ニ孤立性ノ拇指頭大圓形陰影(第5圖)	殆ソド同前ナルモ稍々ソノ濃度ヲ増ス。(第6圖)		
備 考		自覺症ナシ	氣胸療法施行セズ。休業セズ		

第 5 圖



第 6 圖



1 年後 81.0 cm デアツタガ、身長、體重、「ツ」反應、赤沈等ニハ初檢時及ビ1年後ニ於テ著差ハ認メラレナイ。且自覺症モナカツタガ、X線檢査ニ於テハ左鎖骨下ニ圓形陰影ヲ認メラレタ(第5圖)。ソノ後日勤中ナルモ、病竈ハ1年後ニ至ルモ殆ソド變化ヲ示サナイ(第6圖)。

症例 2 (第9表)、體重ハ1年後 3 kg 減少、赤沈、1時間値、初檢時 6、1年後 29 ヲ示シ、自

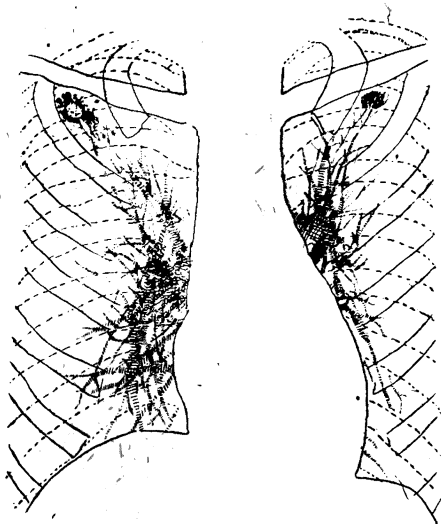
覺症ハナカツタガ、右鎖骨下ニ比較的新シイト推斷サレル空洞アリ、ソノ周圍及ビ左鎖骨下ニ轉移竈ト認メラル、陰影アリ(第7圖)。ソノ後休業ヲ肯ゼズ、氣胸療法モ施行シナイガ、病竈發見後1年ニ於テ體重ハ 5 kg 増加シタ。併シ病竈ハ一層進屢惡化シタ(第8圖)。

症例 3 (第10表) 初檢時ニ於テ「ツ」反應ハ硬結ヲ觸知セズ、赤沈1時間値 18。1年後ニ於テ

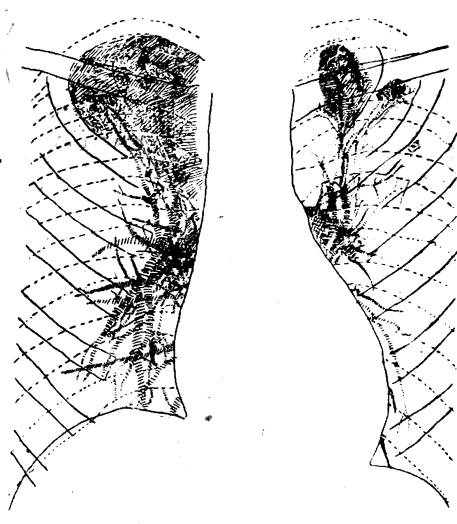
第 9 表 症 例 2

索引番號	15—8237	初檢時年齡	17 歲	初檢時	昭和 15 年 12 月 3 日
檢 查 項 目	初 檢 時	1 年 後	2 年 後		
身 長 cm	164.6	164.6	165.0		
體 重 kg	51.0	48.0	53.0		
胸 圍 em	80.4	80.1	80.5		
「ツ」反應 mm (發 硬 赤 結)	$\frac{23 \times 20}{15 \times 15}$	$\frac{20 \times 21}{20 \times 21}$	$\frac{17 \times 21}{17 \times 21}$		
赤 沈 mm (1 時間値) (2 時間値)	$\frac{6}{15}$	$\frac{29}{60}$	$\frac{24}{58}$		
X 線 像	病竈ヲ認メズ	右鎖骨下外側＝中指頭大ノ空洞アリ、ソノ周圍＝若干ノ斑點狀陰影及一個ノ小指頭大圓形陰影ヲ認ム。左鎖骨下外側＝ハ中指頭大ノ淡イ圓形陰影。(第 7 圖)	右側—第 1 肋間(前)ヨリ肺尖全野＝互リ一部索狀陰影ヲ以テ點線サレタル斑點狀雲狀ノ廣範ナシテ、中ニ若干ノ空洞ヲ認ム。左側—鎖骨下陰影ハソノ濃度ヲ減セルモ肺尖野及第 1、第 2 肋間外側＝斑點狀陰影アリ。(第 8 圖)		
備 考		自 覺 症 ナ シ	氣胸療法施行セズ。休業セズ		

第 7 圖



第 8 圖



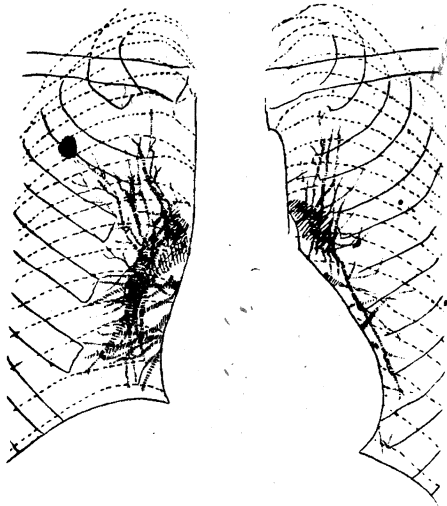
ハ、「ツ」反應依然硬結著明デナク、赤沈 1 時間値 21。體重ハ 1 年後 2.4 kg 増加シ、自覺ハナカッタガ X 線像ニ於テ右第 2 肋間腔ニ橢圓形陰影ヲ認ム(第 9 圖)。氣胸療法ヲ薦ムルモ施行セ

ズ、ソノ後 1 年(初檢後 2 年)ニハ體重 1.9 kg 減少シ、「ツ」反應ノ硬結著明トナリタルモ赤沈 1 時間値 42ニ促進ス。X 線像ハソノ後 1 年ニ於テ空洞ヲ形成シ、左側ニ轉移竈ヲ認ム(第 10 圖)。

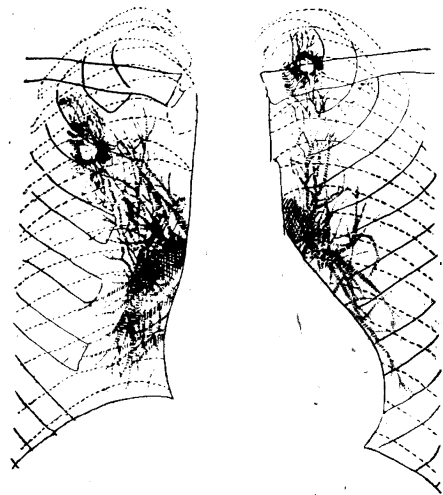
第 10 表 症 例 3

索引番號 15-1660	初檢時年齡 17 歲	初檢時 昭和 15 年 2 月 24 日	
檢 査 項 目	初 檢 時	1 年 後	2 年 後
身 長 cm	160.0	160.1	160.1
體 重 kg	49.0	51.4	49.5
胸 圍 cm	82.0	82.5	82.2
「ツ」反應 mm (發 赤 硬 結)	$\frac{21 \times 26}{(-)}$	$\frac{21 \times 23}{(土)}$	$\frac{16 \times 20}{(+)}$
赤 沈 mm (1 時間値) (2 時間値)	$\frac{18}{30}$	$\frac{21}{37}$	$\frac{42}{65}$
X 線 像	病竈ヲ認メズ	右第 2 肋間(前)上外側ニ小指頭大孤立性ノ橢圓形ノ陰影 (第 9 圖)	右側一第 2 肋骨(前)陰影ニ重ツテ指頭空洞形成。 左側一肺尖野及第 1 肋間(前)ニ斑點狀、雲狀陰影、中ニ空洞形成ヲ認ム。(第 10 圖)
備 考		自 覺 症 ナ シ	氣胸療法施行セズ。休業セズ

第 9 圖



第 10 圖



症例 4 (第 11 表) 初檢時「ツ」反應著明、水泡アリ。赤沈 1 時間値 12。1 年後ニ於テハ、「ツ」反應著明デアルガ水泡ハ伴ハズ、赤沈 1 時間値 7 自覺症ハナイガ體重 2.4 kg 減少ス。X 線像ニ於テハ第 2 肋間腔(前)ニ不整形陰影ヲ認ム(第 11 圖)。氣胸療法施行セズ。ソノ後 1 年(初檢後 2 年)ニ於テハ、體重更ニ 2.6 kg 減少シ、X 線

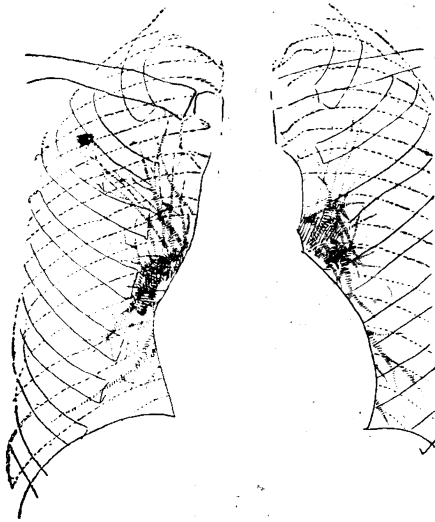
像ニ空洞形成ヲ認ム(第 12 圖)。

症例 5 (第 12 表) 身長、體重、胸圍、赤沈等ニハ著變ナク自覺症モ無イガ、「ツ」反應度ハ 1 年後稍々減弱ヲ示シニ重發赤ヲ認メズ、X 線像ニ於テ右第 2 肋間腔(前)ニ不整形陰影ヲ認メタ(第 13 圖)。ソノ後、忠告ヲ無視シテ休業モセズ、氣胸療法モ施行シナカツタガ、1 年後(初檢後 2

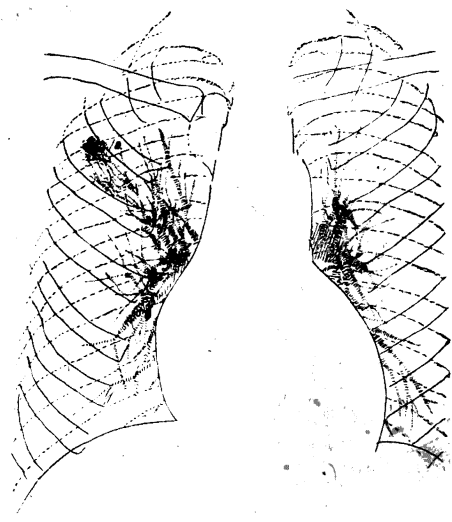
第 11 表 症 例 4

索引番號	15-7931	初檢時年齡	18 歲	初檢時	昭和 15 年 12 月 2 日
検査項目	初 檢 時	1 年 後		2 年 後	
身長 cm	159.9	160.0		160.2	
體重 kg	53.0	50.6		48.0	
胸 圍 cm	81.6	81.4		81.5	
「ツ」反應 mm (發赤硬結)	25×20 水泡 16×16 二重發赤	19×21 16×18 二重發赤		16×18 16×18 二重發赤	
赤 沈 mm (1時間値 2時間値)	12 30	7 21		6 15	
X 線 像	病竈ヲ認メズ	右第 2 肋間前外側＝小指頭大ノ不整形雲狀陰影 (第 11 圖)		空洞形成シソノ周圍ニ小斑點狀陰影 (第 12 圖)	
備 考		自 覺 症 ナ シ		氣胸療法施行セズ。休業セズ	

第 11 圖



第 12 圖



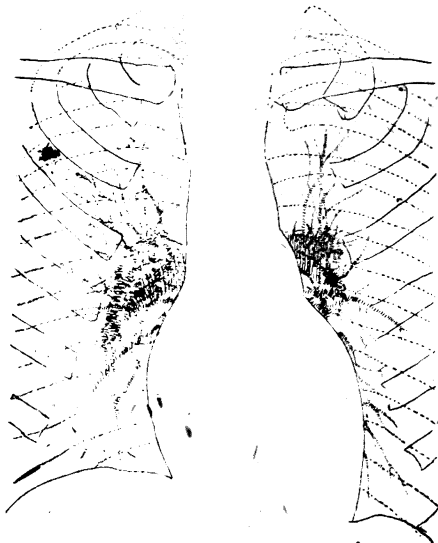
年)ニ於テハ病竈一段ト遂進惡化ス(第 14 圖)。
 症例 6 (第 13 表) 初檢時異狀ヲ認メ得ナカッタガソブ後 3 ヶ月ニシテ、發赤、胸痛、咳嗽等アリ。検査ニヨリ左側濕性肋膜炎ト診定ス。6 ヶ月療養ノ後治癒シ、ソノ後 2 年ニ至ルモ他ニ病竈ヲ認メズ。初檢後 1 年ニ於ケル X 線(第 15 圖)ハ、左下肺野外側ニ陰影ヲ認メタガ、ソノ後 1 年ノ X 線像(第 16 圖)ニ於テハ、左第 2 肋骨陰

影隨伴像ヲ認ムル他、著變ナシ。
 症例 7 (第 14 表) 初檢當時、體力章檢定會ニ於テ中級合格。1 年後ニ於テモ、身長、體重、胸圍等ニ著變ナク、健康感ニ自信ヲ持ツト言フガ、赤沈 1 時間値ハ初檢時ノ 2 ニ對シ 1 年後 53、X 線像(第 17 圖)ニ於テハ、左鎖骨下ニ比較的新鮮ト思ハレル空洞ヲ認ム。ソノ後氣胸療法モ施行セズ、ソノ年 1 後ニハ病竈躍進惡化ス(第 18 圖)。

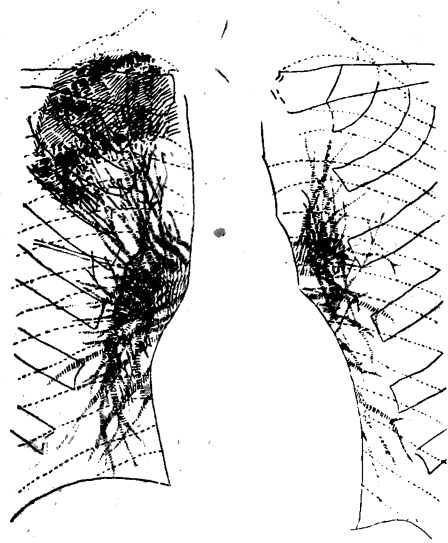
第 12 表 症 例 5

索引番號 15-9224	初檢時年齡 18 歲	初檢時 昭和 15 年 12 月 9 日	
檢 查 項 目	初 檢 時	1 年 後	2 年 後
身 長 cm	164.5	165.0	165.4
體 重 kg	55.0	54.2	55.3
胸 圍 cm	80.3	80.5	80.9
「ツ」反應 mm (發赤硬結)	$\frac{18 \times 18}{18 \times 18}$ 二重發赤	$\frac{17 \times 18}{17 \times 18}$	$\frac{18 \times 17}{(+)}$
赤 沈 mm ($\frac{1}{2}$ 時間値)	$\frac{4}{12}$	$\frac{5}{13}$	$\frac{4}{11}$
X 線 像	病竈ヲ認メズ	右第 2 肋間腔(前)外側=拇指頭大域ノ不整形陰影 (第 13 圖)	右第 2 肋間ノ陰影ハ周圍ニ擴大シ、更ニ第 1 肋間及右肺尖全野ニ互リ一部融合セル斑點狀雲狀陰影アリ (第 14 圖)
備 考		自 覺 症 ナ シ	自覺症ナク、休業セズ、氣胸療法施行セズ

第 13 圖



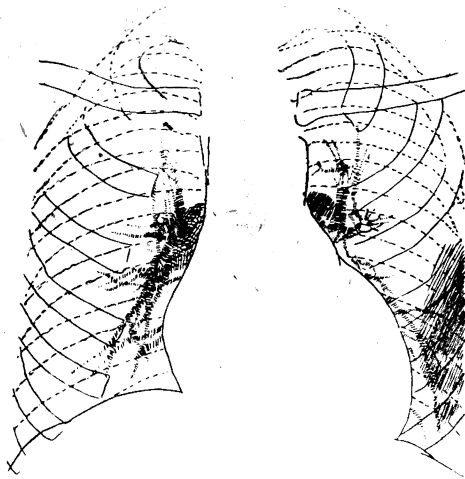
第 14 圖



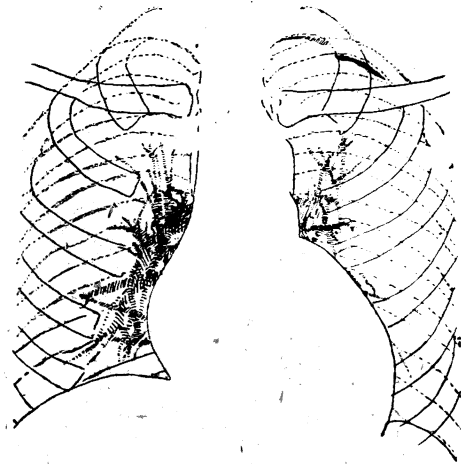
第 13 表 症 例 6

索引番號 15—1015'		初檢時年齡 18 歲		初 檢 時 昭和 15 年 7 月 15 日	
檢 査 項 目	初 檢 時	1 年 後	2 年 後	1 年 後	2 年 後
身 長 cm	153.2	153.2	153.6		
體 重 kg	45.2	45.0	44.6		
胸 圍 cm	81.0	81.0	81.0		
「ツ」反應 mm (發赤硬結)	$\frac{22 \times 22}{11 \times 11}$	$\frac{19 \times 20}{19 \times 20}$	$\frac{24 \times 24}{24 \times 24}$		
赤 沈 mm (1時間値) (2時間値)	$\frac{10}{21}$	$\frac{3}{8}$	$\frac{1}{3}$		
X 線 像	病竈ヲ認メズ	左肋骨横隔竇ハ鈍角ヲナシ第 3 肋間腔(前)ヨリ下方、稍ク暗色。(第 15 圖)	左第 2 肋骨隨伴像著明、他、著變ナシ。(第 16 圖)		
備 考		初檢後 3 ヶ月ニシテ自覺症アリ、左側濕性肋膜炎ノ診斷ニテ療養ス	應 召		

第 15 圖



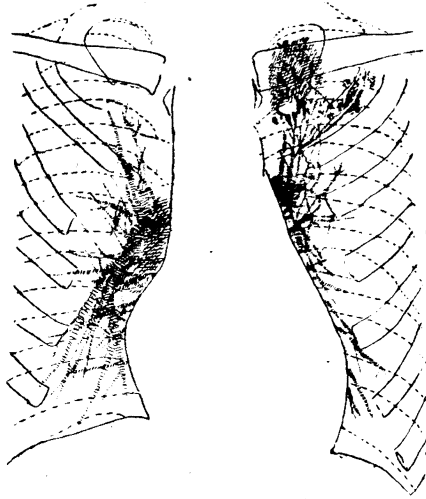
第 16 圖



第 14 表 症 例 7

索引番號	15—593	初檢時年齡	18 歲	初 檢 時	昭和 15 年 7 月 9 日
檢 査 項 目	初 檢 時	1 年 後		2 年 後	
身 長 cm	163.8	163.8		164.4	
體 重 kg	51.8	50.8		51.0	
胸 圍 cm	81.8	82.0		83.5	
「ツ」反應 mm (發赤硬、赤結)	$\frac{19 \times 22}{9 \times 9}$	$\frac{20 \times 20}{20 \times 20}$		$\frac{19 \times 21}{19 \times 21}$	
赤 沈 mm (1 時間値、2 時間値)	$\frac{2}{5}$	$\frac{53}{101}$		$\frac{6}{20}$	
X 線 像	病竈ヲ認メズ	左鎖骨胸骨端陰影直下ニ拇指頭大ノ空洞アリ、ソノ周圍及左肺尖野竝ニ第 1 肋間腔ニ雲狀斑點狀陰影。(第 17 圖)		空洞周圍ヨリ左肺尖全野及ビ左第 1 竝ニ第 2 肋間腔(前)ニ雲狀斑點狀陰影(第 18 圖)	
備 考	體力章檢定 中級合格	自 覺 症 ナ シ		氣胸療法施行セズ、休業セズ	

第 17 圖



第 18 圖



以上ノ如ク、初檢時「ツ」反應陽性結核竈ヲ認メナカツタ者ノ中、1年後病竈ヲ認メ得タ者ノ病型ハ、肋膜炎 1 例、鎖骨下ニ於テ圓形陰影 1 例及ビ空洞 2 例、第 2 肋間腔(前)ニ於テ橢圓形陰影 1 例及ビ不整形陰影 2 例ニシテ、肋膜炎例ヲ除ク外、自覺症ヲ訴ヘズ就業中ノ者ニシテ、ソノ後 1 年間ニ於ケル經過ハ、肋膜炎治癒、鎖骨

下圓形陰影 1 例同前ノ他、各例トモ自然治癒ヲ認メズ、却ツテ躍進惡化シタ。

第 1 章ヨリ第 3 章迄ノ小括 昭和 16 年及ビ 17 年ニ施行シタ結核ニ關スル集團檢診成績ヲ概括スルト、次ノ様デアル。

1. 16 年ノ成績ハ 男子 14—19 年齡ニ就イテ觀ルト、「ツ」反應陽性率ハ、東京地方ニ於テ 14 歲

36%カラ 19 歳 47%ニ、小都市附近 14 歳 19%カラ 19 歳 38%ニ、要療養者検出率ハ、東京地方 15 歳 1.3%カラ 19 歳 4.0%ニ、小都市附近 15 歳 0.5%カラ 19 歳 1.2%ト何レモ東京地方高率ニシテ且兩地方トモ年齢ノ増加スルニ從ヒ、比較的急ニソノ率ノ増加ガ認メラレタ。

2. 14—25 歳ノ男子ニ就イテ 17 年ノ成績ヲ觀ルト「ツ」反應陽性率ハ、14 歳東京地方 39%、小都市附近 37%トソノ値ニ大差ナイガ、ソレ以後ノ年齢ニ於テ東京地方稍々高率ヲ示シテ推移シ、24 歳頃ニ至ルト再ビ近接シ、兩地方トモ 24 歳 82%ヲ示シタ。要療養者検出率ハ、兩地方共ニ、21 歳ニ於テ比較的高峻ナ山ヲ描クガ、小都市附近 (7.5%) ノモノハ、東京地方ノソレ (5.9%) ヲ突破シ極メテ尖化鋭スルニ反シ、東京地方ニ於テハソノ度稍々低ク、小都市附近ニ於ケルガ如ク著明デナイ。

3. 14—19 歳ノ男子ニ就イテ年度別ニ比較スルト、小都市附近ニ於テハ、「ツ」反應陽性率モ、要療養者検出率モ 16 年度ニ比較シ 17 年ニ於テ共ニ増加ヲ示シ、且東京地方ノ夫レニ一層接近スルガ、東京地方ニ於テハ、「ツ」反應陽性率ノミハ 17 年ニ於テヨリ高率ヲ示スニ拘ラズ要療養者検出率ハ之ニ伴ハズ、兩年度間ニ著差ニ認メ得ナカッタ。尙「ツ」反應陽性者ニ對スル要療養者検出率ヲ觀ルト小都市附近ニ於テハ、兩年度間ニハ大差ナク、東京地方ニ於テハ寧ロ低率ヲ示シタ。

4. 東京市内中心地區在勤ノ 13—66 歳ノ男女子ニ 16 年施行シタ成績ハ検査總員 19358 名ニ對シ、「ツ」反應發赤 10 mm 以上反應者 80%、要療養者検出率 2.7%デ、性別ニ觀ルト女子ノ「ツ」反應陽性率ハ 68%、要療養者検出率ハ 2.5%ヲ示シタ。

5. 男子ニ就イテハ「ツ」反應發赤 10 mm 以上反應者 80%、5 mm 以上反應者 83%、要療養者検出率 2.7%デアアルガ、年齢別ニ觀ルト、「ツ」反應陽性率ハ 22 歳 (80%) 迄ハ可成リ急ニ増率シソノ後特ニ 30 歳 (91%) 以後デハ増加度極メ

テ緩慢トナリ、48 歳 99%、54 歳 98%等ノ値ヲ示シテ、遂ニ 100%ニハ到達シナイ。併シ「ツ」反應發赤 5 mm 以上反應者ニ於テハ 50 歳ニ於テ 100.0%ニ達ス。男子ノ要療養者検出率ハ概シテ緩慢ナ山ヲ描キ、20—24 歳ニ 1 ツノ低イ山 (3.6%) ヲ作り、後、30—34 歳ノ谷 (2.3%) ヲ經テ、再ビ 40—44 歳ノ壯年期ニハ前ノ山ニモ達スル位ノ山 (3.3%) ヲ描イテ居ルコトガ觀取サレタ。

6. 上記男子要療養者ノ病型ヲ觀察スルト、肋膜炎、肺門淋巴腺腫脹及ビ初期變化群ハ 15—19 歳ニ於テ最も多ク發見サレ、後ソノ率ヲ減ジ、肋膜炎及ビ初期變化群ハ 25 歳以後、肺門淋巴腺腫脹ハ 30 歳以後ニ於テハ檢出ヲ見ズ、初期肺浸潤ハ 20—24 歳 (1.0%) ニ於テ最も多ク 35 歳以後ニ於テハ之ヲ認メナカッタ。粟粒結核症ハ 15—19 歳ニ於テ僅カ 1 例 (0.02%) ヲ檢出シタノミ。反之慢性結核症ニ於テハ各年齢層ニ認メラレ、肺尖結核症ハ 15—19 歳 (0.4%) カラ 30—34 歳 (1.2%) 迄漸次増シタガソノ後ハ止リ、肺結核症ハ 15—19 歳 (0.6%) カラ漸増シテ 40—44 歳 (2.2%) ニ至リ後増加ヲ示サズ。尙要療養者検出率曲線ノ第 1 ノ山ニ當ル 20—24 歳デハ初期結核症 (1.7%) 及ビ慢性結核症 (1.8%) 共ニ殆ンド同率デアツタガ、第 2 ノ山ノ 40—44 歳デハ慢性結核症ノミ檢出シタ。

7. 初檢時「ツ」反應陽性者 1498 名ニ就イテ 3 年間ニ互ル觀察結果ノ概略ハ次ノ様デアアル。

a. 初檢時ニ於テ、既ニ病竈ヲ認メ得タ者ハ 170 名ニシテ被檢者ニ對シソノ 11%ヲ占メタ。

b. 初檢時 X 線像ニ病竈ヲ認メ得ナカッタ「ツ」反應陽性者ニ就イテ、更ニ 1 年後ノ再檢ノ結果、X 線像ニ結核病竈ヲ認メ得タ者ハ僅カ 7 名、即チ被檢全數ニ對シ 0.5%ニ過ギナカッタ。

c. ソノ病型ハ、肋膜炎 1 例、鎖骨下ニ於テ圓形陰影 1 例及ビ新鮮ナル空洞 2 例、第 2 肋間腔 (前)ニ於テ橢圓形陰影 1 例及ビ不整形陰影 2 例デ、内増悪 5 例、停止及ビ全治各 1 例デアツタ。

d. 「ツ」反應陽性ニシテ且初檢時ニ於テモソノ

後1年ニ於テモ病竈ヲ認メ得ナカッタ者ニ對シ、更ニ1年後(即チ初檢後2年ニ)前回同様ノ檢査ヲ施行セシ處、ソノ受檢者125名中、1例ノ結核病竈モ發見スルヲ得ナカッタ。

稿ヲ終ルニ臨ミ終始御懇篤ナル御指導竝ビニ御校閱ヲ賜ツタ豫防會結核研究所研究部長岡治道博士竝ニ日本醫療團中野療養所限部英雄博士ニ謹ンデ深甚ナル謝意ヲ表ス。

文 獻

1) Westergren, A., (1924), *Ergeb. d. inn. Med. u. Kinderheilkunde*, 26, 576. 2) 岡外2名(1937), *東北醫學雜誌*, 21, 692. 3) 宮本外4名(1941).

厚生科學, 2, 502. 4) 宮本外4名(1943), *厚生科學*, 4, 314.